

報道機関各社 様

担当：札幌市消費生活課調査指導係 TEL 728-2111 FAX 728-2112
---

**令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給動向・価格見通しについて**

札幌市では、生活に密着した食品や石油製品等の生活関連商品の価格の動向を的確に把握し、市民に情報提供するため、業界団体や事業者の協力を得て、年末年始における各商品の需給動向及び価格見通しに関する調査を行いましたので、その結果についてお知らせします。

## 記

## 1 協力を得た業界団体及び事業者

- |                   |                       |
|-------------------|-----------------------|
| (1) 札幌みらい中央青果株式会社 | (5) (一社)北海道LPガス協会石狩支部 |
| (2) カネシメ高橋水産株式会社  | (6) ホクレン農業協同組合連合会     |
| (3) 札幌食肉卸業協会      | (7) 北海道製麺協同組合         |
| (4) 札幌地方石油業協同組合   | (8) 日糧製パン株式会社         |

## 2 調査時期

令和元年12月上旬

## 3 概要

## (1) 青果物

調査対象の17品目中、安値・やや安値3品目、前年並み4品目、やや高値・高値10品目となった。

本州の台風や豪雨の影響を受けた産地の品目は高値傾向である一方、たまねぎ、ばれいしょなど北海道産の品目は豊作により安値傾向となった。

## (2) 水産物

調査対象の16品目中、安値・やや安値6品目、前年並み4品目、やや高値・高値が5品目となった(味付数の子はやや安値～やや高値)。

昨年高値であったいくらはやや安値見通し。いかと昆布は不漁により十分な量がなく、高値となっている。

## (3) 畜産物

調査対象の7品目中、やや安値1品目、前年並み3品目、やや高値・高値3品目となった。

安値見通しは国産鶏肉のみ。輸入豚肉はASF(アフリカ豚コレラ)の影響で高値見通し、国産豚肉は前年並みとなっているが、CSF(豚コレラ)の影響により、今後の相場は不透明である。

## (4) その他食料品

小麦粉はやや安値、もち米、黒豆、パンは前年並み、鶏卵、生そば、そば粉、ラーメンはやや高値見通し。安値及び高値を見込む品目はない。

(5) 石油製品

灯油、レギュラーガソリン、軽油はやや安値、プロパンガスは前年並みを見込む。中東情勢の不安定化など、不透明な部分はあるが、現状大きな変動は見込まれない。供給量は十分な量が確保されている。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の価格見通し 一覧表

	安値	やや安値	前年並み	やや高値	高値
青果物	ごぼう たまねぎ	ばれいしょ	生しいたけ みつば きゃべつ 長ねぎ	みかん にんじん れんこん 里いも だいこん はくさい ほうれん草 きゅうり レタス	さつまいも
水産物	赤えび ほたて (冷凍)	新巻さけ いくら はまち たこ  味付数の子※	飯寿司 ほたて (生鮮) スモークサーモン 板かまぼこ	まぐろ たらばがに (生鮮・冷凍)	いか こんぶ
畜産物		国産鶏肉	国産牛肉 国産豚肉 ロースハム	輸入豚肉 輸入鶏肉	輸入牛肉
その他 食料品		小麦粉	もち米 黒豆 パン	鶏卵 生そば そば粉 ラーメン	
石油 製品		灯油 レギュラーガ ソリン 軽油	プロパンガス		

※ 価格見通しの用語基準

前年並み = 前年同期比±5%未満

やや安値・やや高値 = 前年同期比±5～15%未満

安値・高値 = 前年同期比±15%以上

※ 味付数の子は産地により異なるため「やや安値～やや高値」

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青 果	ごぼう	安値	道内産中心の入荷になる見込み。 生育期の天候に恵まれ、入荷は順調。価格は安値になる見込み。
	たまねぎ		道内各産地で豊作傾向となり、出荷数量が多い見込み。九州、関東でも豊作だったため、長期間出荷が多い状況が続いている。
	ばれいしょ	やや安値	後志、十勝、網走産中心の販売予定で、貯蔵品の出荷となる。各産地とも大玉傾向で、豊作基調であり、やや安値での推移が予想される。
	生しいたけ	前年並み	胆振、石狩、根室を中心に全道からの入荷。 作付けは昨年並み。各産地の大所は年末に向けて発生作業を行うが、気温によっては10日前後のずれ込む可能性がある。入荷量、単価は昨年並みを見込む。
	みつば		軟白みつばは渡島産中心の販売。作付は減少しているが、生育は順調。数量の少なかった昨年並みの入荷量になる見込み。
	きゃべつ		主産地となる愛知県の生育が良く、順調に入荷できる見込み。
	長ねぎ		埼玉、千葉産ともに作付は平年並み。台風19号の影響はあるが、茨城産も増えているため、昨年同様堅調に推移する見込み。
物	みかん	やや高値	和歌山産主力で愛媛、佐賀産他が入荷となる。和歌山産の本年は裏年で、昨年の台風被害もあり、前年比1割減程度の作況となった。特に、年末需要に係る中生、普通柑の作況は前年比85%と予想され、年末は不足感のある販売になる見通しで、高値推移の見込み。 愛媛産は昨年より着色が遅れており早生の販売を5～10日伸ばす見込み。年末供給分の確保の意味もあり、数量は昨年比95%くらいの見込み。 佐賀産は和歌山産と同様の状況で、昨年比92%の作況となる見込み。12月中旬まで早生、下旬には青島みかんの入荷となる。
	にんじん		千葉、茨城、埼玉産の入荷。台風の上陸前までは順調に生育していたが、多少台風の影響を受け平年作となった。価格は安値であった昨年並みか、やや高めになる見込み。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
青 果 物	れんこん	やや高値	茨城県産主力の入荷で作付面積は昨年並み。台風の影響で数量の減少、品質低下の懸念あり。
	里いも		千葉、宮崎、埼玉産の入荷。千葉産が主力になるが、台風・大雨の影響で数量は減少する見込み。単価はやや高値になる予想。
	だいこん		千葉、神奈川産を中心に一部九州からの入荷がある見通し。台風の影響により、昨年より単価高となる予想。
	はくさい		主産地の茨城県は、10月の豪雨の影響で防除作業に一部遅れが出ている。12月下旬には回復の見込み。他県産は順調に生育している。
	ほうれん草		茨城、群馬中心の販売。作付は昨年並み。台風の影響で露地作が少なく、全体としては平年よりも少ない入荷になる見込み。
	きゅうり		宮崎県産については、現状台風の影響もなく順調に生育している。
	レタス		結球レタスは静岡県、非結球レタスは茨城県主力の入荷。10月の豪雨の影響で、12月上旬頃まで品質の低下がみられるが、中旬以降は回復する見込み。
	さつまいも	高値	茨城中心の入荷見込み。天候不順により小玉傾向のため入荷量が減少し、価格は高値の見込み。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
水産物	赤えび	安値	アルゼンチン赤えびは産地が豊漁であること、2大消費地である中国・スペインに越年在庫があることから、日本向け相場が下落した。
	ほたて(冷凍)		玉冷は大型サイズを中心に安値となったが、小型サイズは前年並み。ボイルほたても売れ行き不調から、安値へ転じた。
	新巻さけ	やや安値	19.5K大箱は昨年に比べ若干安いが、10.0K小箱は全体的に昨年より少ないため価格は前年並み。
	いくら		秋鮭の漁獲数量は業務予想に対して少ないが、昨年の製品高値による販売不振により、やや安値となっている。
	はまち		昨年の尾数減少による浜値の急高騰に比べて、今年から来年に向けて安定した尾数が予想されるため、やや下げ予想。
	たこ		去年より漁獲減だが、原料価格も製品価格も年度末に苦戦したため、今年は下げ値。ただし、現在よりも製品の価格は多少上げ値予想。
物	飯寿司	前年並み	魚種により高い安いはあるが、平均すると前年並み。
	ほたて(生鮮)		今年の漁獲量としては安定予想。年末に向けて前年並みの価格予想。
	スモークサーモン		紅鮭原料が高値のため、製造メーカーも終売をしているところもあり、製品も昨年の約2割アップとなっている。輸入養殖のサーモンを使用する製品の値段はまちまち。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
水	板かまぼこ	前年並み	原料の魚肉すり身は相変わらず高値で推移しているものの、各社とも昨年度価格改定を実施しており、卸値は前年並みの予想。
	まぐろ	やや高値	国内物天然本まぐろは漁獲枠の問題があり不安定で高値予想。養殖物中心になると予想され、やや高値の予想。
産	たらばがに (生鮮・冷凍)		生鮮はロシア産の輸入が少なく、道内で揚がるたらばがにの漁が不安定のため、やや高値見通し。 冷凍は海外の活需要が増え、冷凍の搬入が減ったため、前年よりやや高値。
	いか	高値	道内は昨年の半分以下の水揚げ。後半も伸びる見込みはなく、高値で推移。
	こんぶ		昆布の入札価格が全体的に10～20%、ものによっては40%近く上がっている。製品価格も同様。
物	味付数の子	やや安値   やや高値	東カナダ産は原料高により300円程度値上げ、ロシア産は横ばい。西カナダ、ブリストル産はやや安値形成。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
畜産	国産鶏肉	やや安値	全国的な処理羽数増により低価格が続いている。年末は例年同様、相場上昇に向かうものの、上げ幅としては緩やかと予想される。
	国産牛肉	前年並み	販売状況はそれほど良くない様だが、相場に関しては、品種問わず堅調に推移している。年末を控えているが、例年通り肩ロースなどのアイテムが堅調と予想される。
	国産豚肉		出荷頭数も前年並みで、価格も例年並みになるのではないかと考えられる。しかし、国内でのCSF（豚コレラ）の影響は注視する必要がある、上がる可能性も下がる可能性もどちらも考えられる。
	ロースハム		原料高は前年と同様で、高値であった昨年そのままという状況。お歳暮などのギフト品も同様。
物	輸入豚肉	やや高値	中国のASF（アフリカ豚コレラ）の影響が出ると予想される。国内在庫は多いが、少なくなれば状況は変わっていくと思われる。バラ中心に値段が上がり、国内豚相場にも影響が出る可能性がある。
	輸入鶏肉		国内の輸入ブロイラーの出回り量が増え、国内在庫も減少している為、相場は上げに転じている。1月以降に入荷する予定の先物価格も例年に比べて高い為、年末にかけて価格は高値で推移すると思われる。
	輸入牛肉	高値	米国産に関しては前年並みの相場帯だが、豪州産に関しては現地からの日本への価格提示が高騰している為、年末にかけて高値の見通しとなっている。価格が比較的安定している北米に産地変更する動きが出ている。

令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
そ の 他 食 料 品	小麦粉	やや安値	輸入小麦の政府売渡価格が4月及び10月に引下げられたが、小麦粉価格は前年を上回って推移している。来年1月からの改定に伴い値下がりする見通し。
	もち米	前年並み	北海道産について、平年作は確保できる見通しにあり、大手需要者を中心に複数年の契約栽培を行っており価格の変動要素は少ない。一方、府県産もち米の一部では、作付面積の減少等から昨年と比較し、高値で推移しているものが見受けられる。
	黒豆		元年産の作付面積増加と収量も平年を上回る見込みのため、原料価格は前年に比べて安値で推移する見通し。一方、近年は安定供給を目的とした価格固定の契約栽培が増えるなど、末端価格は前年と比較して大幅な変動はない見込み。
	パン		人手不足に伴う人件費や物流費、エネルギーコストの高止まりにより厳しい経営環境が続いているが、販売店や消費者の節約志向が根強く前年並みの見込み。
	鶏卵		今年度のヒナ餌付羽数は減少傾向にあり、稼働羽数が減るため生産量の減少が予想される一方、堅調な消費が見込まれることから、相場は前年よりやや高値で推移する見通し。
	生そば	やや高値	昨年から続いている道産そば粉の品不足から、原料そのものも多少高値に張り付いているが、人件費、物流経費の値上がりにより、包材・ダンボールも含め少しずつ上値見通し。
	そば粉		同上
ラーメン	包材・段ボールを含め、人件費や物流経費の上昇による値上がりが続いているのが実情。		



令和元年度 年末年始における生活関連商品の需給・価格見通し

品目		価格見通し	需給動向
石 油 製 品	灯油	やや安値	中東情勢も比較的安定しており現時点では価格が大きく変動することは考えにくい。 需給動向についても安定している。
	レギュラー ガソリン		同上
	軽油		同上
	プロパンガス	前年並み	輸入価格は上昇しているが、前年並みと思われる。中東情勢の不安定化により、先の見えない状況にもある。供給量は確保されている。